

めぶくIDデータ連携基盤：全体概要

めぶくIDデータ連携基盤は、「共通ID認証」と「非パーソナルデータのデータ連携」・「ダイナミックオプトイン（本人同意）」に基づくパーソナルデータのデータ連携」の双方に対応したデータ連携基盤です。

概要

イメージ

サービス内容

- マイナンバーカードをトラストアンカーとしてスマートフォン端末のHSM内で秘密鍵・電子証明書を発行してデジタルIDとして利用し、不正利用を防止
- 電子証明書は電子署名法に基づく認定認証業務として発行され、利用者ごとに利用者識別番号が割り当てられ、IDをサービス間で共有可能
- 電子証明書を発行するためのアプリ等を自治体や企業に対して提供可能であり、速やかに発行主体として運用可能
- 本人の情報提供の同意を簡単かつ安全に設定できるダイナミックオプトイン機能を携え、データ連携基盤を介して認可されたデータだけがサービス間で流通する仕組みを実現
- 地域通貨や地域ポイントをはじめとする決済機能や、ダッシュボード機能もサービスの一部として提供可能

提供者

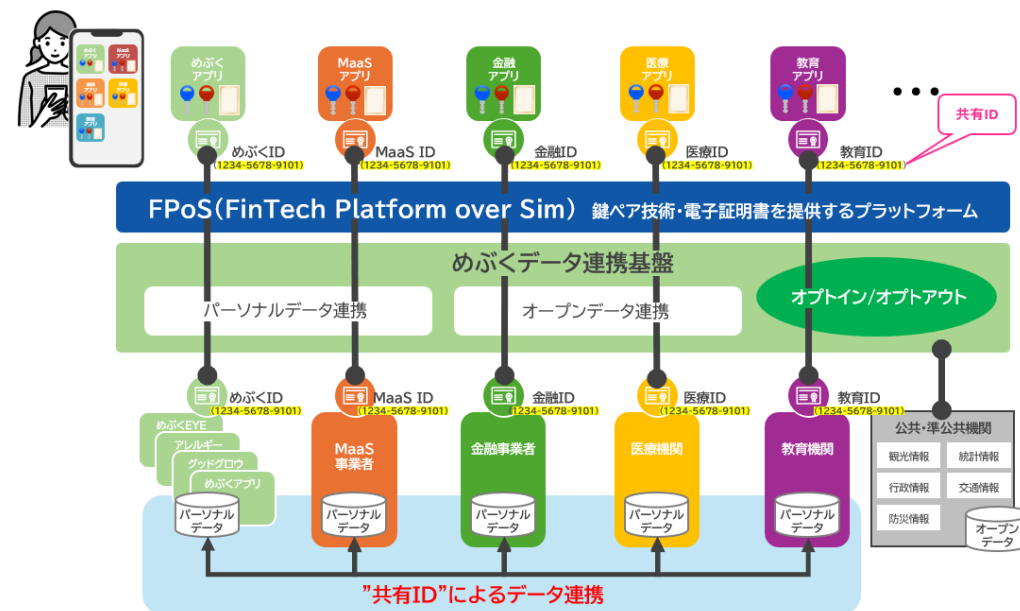
- めぶくグラウンド株式会社
(問い合わせ先：mebuku-info@mebukuba.jp)

導入自治体

- 群馬県前橋市、北海道江別市、長崎県大村市、大阪府門真市

導入費用

- 開発費：カスタマイズ費用のみ（別途相談）
- ID利用料：1自治体あたり以下のとおり
 - ID基盤利用料：20万円/月
 - データ連携基盤利用料：20万円/月

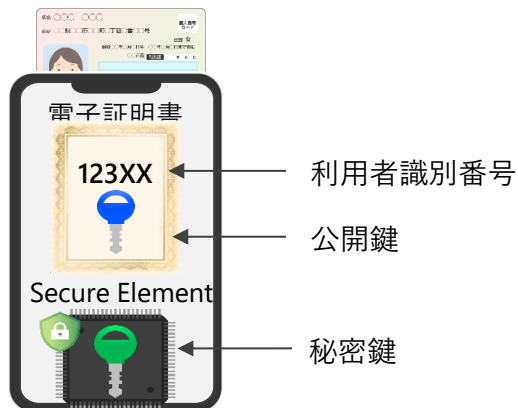


MNCにより本人確認して発行する電子証明法に基づく電子証明書の一意的利用者識別番号を共有型デジタルIDとして利用し、サービス毎のID発行とデータ連携を実現している。

めぶくIDのアーキテクチャー

マイナンバーカードの署名用証明書の署名検証による
本人確認

iPhone・Android
スマートフォン



電子証明書を発行
本人確認により国民一人一人に**唯一の**
利用者識別番号を付与

認証局が電子証明書発行時に電子署名を付与するため電子証明書は改ざんできない



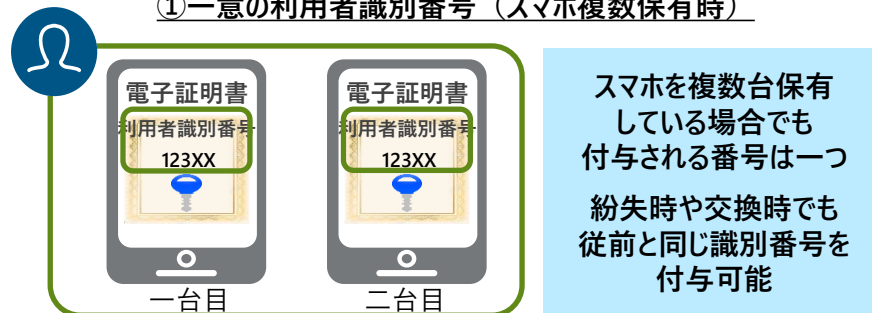
電子署名法の
認定電子認証局

各人の住所変更等は、
J-LISから情報連携される
(リアルタイムでのプッシュ通知)



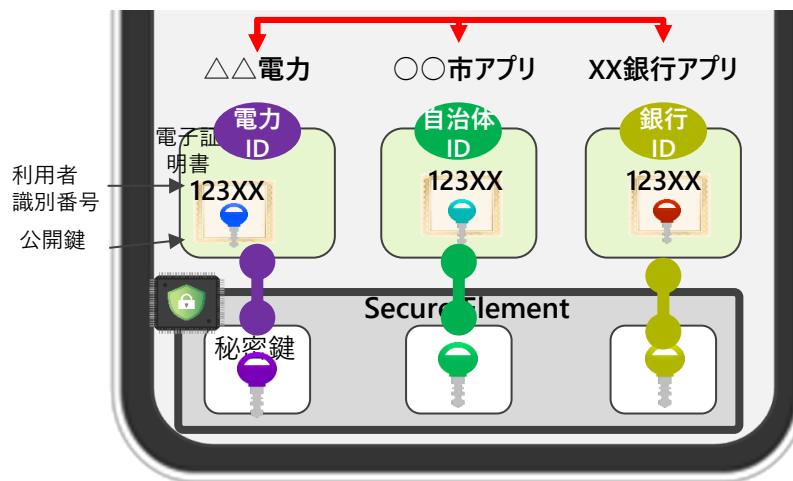
一意的利用者識別番号と共有型ID

①一意的利用者識別番号（スマホ複数保有時）



②同一の利用者識別番号を“共有ID”としてデータ連携を行う

サービスアプリ毎に電子証明書を発行して個別のID名称を付与しながら、
同じ共通ID（利用者識別番号）を用いてデータ連携が可能



利用者が自身の意思に基づいて、主体的に提供するデータの選択ができることが不可欠であり、めぶくIDは指一本の操作でそれを可能とするサービスです。

自己主権型データ管理機能（ダイナミックオプトイン）



ダイナミックオプトイン

- ✓ サービス単位で、利用者自身のパーソナルデータ提供認可を個別に設定
- 例えば、自分のアレルギー情報を
A病院には提供OK、
B病院には提供NG、と設定
- ✓ めぶくアプリ上で、パーソナルデータの提供認可を一括管理
- ✓ 認可／拒否のデータはめぶくIDで電子署名し、エビデンスを保管

めぶくIDを介して生活で利用する様々なサービスがデータ連携することで、市民サービスの拡充・課題に対応できる環境の整備が実現できます。

実現できること

• 自己主権型のデータ管理

自己主権に基づき、利用サービスのパーソナルデータをどの事業者提供するか本人意思で選択（オプトイン）することができる。

• パーソナライズされたサービスの実現

パーソナルデータ・非パーソナルデータの連携により、利用者が欲しい日々の生活情報がダッシュボード上で可視化されるなど、個人最適化サービスが実現できる。

• データ活用による新サービス創出

民間・公共サービスなど異業種間データ連携により、新たな市民サービスが生まれ、さらに参画事業者が増える好循環が生まれる。

• セキュア且つ便利なログイン体験

様々なサービスに一つの共通IDでログインすることができ、IDを記憶したりID/PWを毎度入力する手間がない。
（スマホに格納された電子証明書を読み取るため）

• 行政手続きや決済連携（対応中）

法的根拠のある信頼性が高いIDであることを活かし、行政サービスや銀行口座開設への活用、決済サービス連携を対応中。

